

校友会報

中央学院校友会本部

〒136-0071 江東区亀戸 7-65-12

中央学院大学中央高等学校

TEL (5836) 7 0 2 0

毎年1回発行

誠實に謙虚に生きよ
暖かい心で人に接し
奉仕と感謝の心を養え
常身を慎み反省を
研鑽を怠るな

創設者高橋順次郎博士
建学の精神

校友会長あいさつ
〜創立120周年を迎えて〜



中央学院大学
中央高等学校
校友会会長
佐藤 昌信

校友会の皆様には、新型コロナウイルスの感染拡大のなか、いかがお過ごしでしょうか。中国の武漢から発症したコロナウイルスは瞬く間に全世界に広がり、今日では感染者の数が5000万を超える勢があり、止まるところが見えません。

年が明け、多少落ち着いたところで皆様方と再会して、過ぎたることの確認と、新たな活動方針を取り決めたいと存じます。

さて、我が母校は、今年度に創立120周年を迎えることになります。本校は明治33年東京日本橋に設置された日本橋簡易商業夜間学校から始まります。創設者・高橋順次郎博士が誠実な生き方と奉仕の大切さを示した「建学の精神」は、明治から令和に至る学校運営に反映されてきました。その夜間学校を前身として明治35年、隅田川にかかる永代橋のたもとに、現在の「学校法人中央学院」につながる「中央商業学校」が誕生しました。

その後、苦難の連続が続きます。明治35年の大型台風、大正12年の

関東大震災による校舎の崩壊、太平洋戦時下での特異な状況の中での、工業高校への転換を余儀なくされました。戦後も、中央学院の総合学園化とともに生まれた「さくら幼稚園」「中央学院中学校」が昭和40年代の昼間人口の減少を原因に廃止。さらに、平成13年には「中央商科短期大学」が募集停止になるなどの変遷を経て、我が国が高度経済成長の時代に入った昭和41年に、千葉県我孫子市久寺家に「中央学院大学」を。さらに昭和45年には、同市都部の地に「中央学院高等学校」を開設し、現在の学校法人の体制になりました。

一方、中央区永代橋のたもとにあった中央学院大学中央高等学校（以降、中央高等学校と称する）は、平成11年に、菅原道真を祭り学問の神様として信仰を集める、東京都江東区の亀戸天神社近くの地に移転しました。また、中央高等学校が抱える緊急課題でもある財政問題について、校友会の梅津会計理事が中心となって、法人内部に財政再建を目指した特別の委員会を設置し、各種検討に入りました。続いて、再建のための各種案を実施に移すべく早期解消を図る体制を整えました。いづれにしろ、学校存続に向けた具体的行動計画が動き出しました。

しかしながら、今日の課題として、いよいよ始まる18歳人口の減少が間近に迫ってきました。人口減少は、

最近のニースでみると予想を超えて進んでいるとのことです。から、いつ学校崩壊の現実が襲われかねません。そのためにも、学校法人全体で一糸乱れず力を結集しなければなりません。お尻に火がついてからでは、間に合いません。事前の準備と備えが必要です。

目標の见えない時こそ、私学における建学の精神の存在は何事にも強い味方にほかなりません。

我が中央学院には、創設者である高橋順次郎博士が唱える建学の精神が120年の時を刻みながら、脈々と語り継がれています。

誠実に謙虚に生きよ
暖かい心で人に接し
奉仕と感謝の心を忘れるな
常に身を慎み
反省と研鑽を怠るな

建学の精神が象徴する理想に向けて社会変革に取り組むことが大切です。ところで、120周年記念行事に関する準備は、校友会・永代会・PTA・学校による四者の組織からそれぞれ代表者を選び概ね月一回の会合を重ねており、いよいよ最終段階に入りました。コロナ禍で校友会の行動が見えにくいところがありますが、来年には存在感の「見える化」に努めたいと考えます。

最後に中央高等学校の皆様の一層のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

令和2年度
定時評議員会
及び校友会懇親会中止

令和2年5月22日（金）、亀戸アンフエリシオンにおいて、定時評議員会（総会）及び懇親会が開催予定されましたが、新型コロナウイルス感染症予防のため中止となりました。

今回、中央学院大学中央高等学校創立120周年記念式典準備委員会の報告などの重要案件の承認、それに伴う予算措置などがあり、また役員改選についてもお願いするところ、これらの案件については、全て会長一任とすることをお願い致します。

事業計画

- 一、評議員の活性化をはかる
- 二、会費の増収につとめる
- 三、会報の年一回制作を実行する
- 四、在校生、学校との連絡を強化する
- 五、中央学院学友会校友会連合協議会と連絡を密にする
- 六、委員会活動を活性化させる
- 七、ホームページの充実をはかる
- 八、120周年記念事業を行う

令和2年 台同新春懇親会

令和2年1月31日（金）、恒例の四者合同新春懇親会が、亀戸アンフエリシオンで開催されました。

今回の幹事がPTA側ということで、副会長兼谷絹代さんが司会を務めました。

開会の辞のあと二宮友幸PTA会長、土田忠男校長、佐藤昌信校友会長、鈴木利治PTAOB永代会会長、順次各四者の代表者の挨拶がありました。



中へは吉野賢治校友会相談役の発声により手締めを行いました。



ビンゴ大会の司会進行を中野淳一PTAOB永代会副会長が務めました。



続いて、PTAの森田潤一様による乾杯の音頭で盛大にスタートしました。



令和2年度
校友会役員名簿

役職	卒期	氏名
会長	55	佐藤昌信
副会長	59	谷本弘郎
"	60	白石勝弘
"	62	平川憲一
"	62	中野淳一
"	73	中島伸一
専務理事	66	梅津修
会計理事	65	樋口やい子
常任理事	62	高島有美子
"	78	大橋治久
"	79	大野真人
"	83	金子由信
"	65	青木廣則
"	79	上森健司
"	81	藤掛晃浩
"	84	設楽治樹
"	90	柳徳徳
"	96	秋山正夫
監事	54	石田高幸
"	61	村尾幸夫
相談役	42	山崎正明
"	50	吉野賢治
"	51	佐藤義則
"	51	寺嶋昭雄
名誉会長	55	進藤暉彦

※ 進藤暉彦相談役
平成三十一年春逝去

令和2年度
理事会(総会議案の審議)
中止

会務報告(令和元年度)

平成三十一年・令和1年(5月より)

四月三日 中央学院大学入学式

四月八日 中央学院高校入学式

四月九日 中央高校入学式

四月十八日 決算監査 中央高

四月十八日 理事会 中央高

五月十日 定時評議員会(総会)

九月二二日 理事会(街歩き)

中川船番所資料館
まつば寿司

一〇月五日 中央祭前日祭

一〇月六日 中央祭(文化祭)

令和二年

一月二・三日 箱根駅伝

一月三日 駅伝慰労会

一月三一日 四者合同新年会

新橋第一ホテル東京
アンフェリシオン

新型コロナウイルスの影響により各校の卒業式等は、行事縮小要請により縮小して行ないました。

三月七日 中央高校卒業式

三月八日 中央学院高校卒業式

三月二〇日 中央学院大学学位記配布

四月一七日(金)十七時より、中央高校校友会室において監事による会計監査が行い、十八時三十分より中央高校会議室で理事会を予定しましたが、新型コロナウイルスの感染予防のため中止となりました。

監査については、梅津修会計理事より、秋山正夫・石田高幸両監事に郵送により証拠説明書、決算書案を提示し、質疑応答については電話で行い、五月七日監査報告書を頂きました。

理事会は、定時評議員会及び懇親会開催も中止となる事で、決算については、秋山・石田両監事の監査報告を受け、会務報告・収支決算書については、幹部で審議し、会長一任で成立させました。

予算についても、事業計画において、120周年記念式典準備委員会が令和元年十一月末に組織され、校友会・PTA・OB永代会・PTA・学校の四者により校友会長の佐藤昌信が実行委員長です。祝賀会を頭書予定したが、コロナ渦で中止、式典については、在学生徒のみとし、記念誌の発行がきまりました。この予算等についても、幹部で審議し、会長一任で、成立させました。

監査報告書

監査報告書

中央学院校友会の 令和元年度 (自平成三十一年 4月 1日

至令和二年 3月31日)の収支計算書の監査を実施した。

監査の結果 上記の決算書は適正に作成されているものと認める。

令和二年 5月 7日

監事 石田高幸

監事

監査報告書

中央学院校友会の 令和元年度 (自平成三十一年 4月 1日

至令和二年 3月31日)の収支計算書の監査を実施した。

監査の結果 上記の決算書は適正に作成されているものと認める。

令和二年 5月 7日

監事

監事 秋山正夫

令和元年度 収 支 決 算 書

自 平成31年 4月 1日

至 令和 2年 3月31日

(単位：円)

収 入 の 部	決算	予算	差異	支 出 の 部	決算	予算	差異
食 費 収 入	2,904,000	2,570,000	334,000	評 議 員 会 費	283,676	300,000	△16,324
				会 報 等 印 刷 通 信 費	158,910	450,000	△291,090
寄 付 金 収 入	10,000	10,000	0	同 期 会 補 助	10,000	30,000	△20,000
				同 好 会 補 助	20,000	30,000	△10,000
				事 務 費	60,000	60,000	0
雑 収 入	16	0	16	慶 弔 費	13,300	100,000	△86,700
				ス ポ ー ツ 奨 励 金	30,000	60,000	△30,000
				中央学院連合協議会々々費	0	10,000	△10,000
				委 員 会 活 動 費	0	100,000	△100,000
				新 入 生 卒 業 生 記 念 品	401,997	400,000	1,997
				学 校 設 備 補 助 金	87,774	100,000	△12,226
				学 校 一 般 寄 付 金	0	100,000	△100,000
				雑 費	32,861	50,000	△17,139
				予 備 費		100,000	△100,000
経常収入計	2,914,016	2,580,000	334,016	経常支出計	1,098,518	1,890,000	△791,482
基 本 財 産 運 用 収 入	1,049,988	49,000	1,000,988	基 本 財 産 増 入 支 出	0	0	0
前 年 度 繰 越 金	3,008,157	3,008,157	0	次 年 度 繰 越 金	5,873,643	3,747,157	2,126,486
計	6,972,161	5,637,157	1,335,004	計	6,972,161	5,637,157	1,335,004

※他に基本財産 10,000,000 円(ミズホ社債 1,000万円)

会費収入につきましては、平成28年度新入生から入会金10,000円、卒業時に会費として10,000円を徴収することになりました。
会費収入につきましては今年度入学者151名・卒業生106名の会費収入がございました。

令和2年度 収 支 予 算 書

自 令和2年 4月 1日

至 令和3年 3月31日

(単位：円)

収 入 の 部	予算	前年度予算	差異	支 出 の 部	予算	前年度予算	差異
前 年 度 繰 越 金	5,873,643	3,008,157	2,865,486	評 議 員 会 費	300,000	300,000	0
				会 報 等 印 刷 通 信 費	450,000	450,000	0
食 費 収 入	2,750,000	2,570,000	180,000	同 期 会 補 助	30,000	30,000	0
				同 好 会 補 助	30,000	30,000	0
寄 付 金 収 入	10,000	10,000	0	事 務 費	60,000	60,000	0
				慶 弔 費	100,000	100,000	0
雑 収 入	20	0	20	ス ポ ー ツ 奨 励 金	60,000	60,000	0
				委 員 会 活 動 費	100,000	100,000	0
				中央学院連合協議会々々費	10,000	10,000	0
				新 入 生 ・ 卒 業 生 記 念 品	400,000	400,000	0
				学 校 設 備 補 助 金 (新 規)	100,000	100,000	0
				学 校 一 般 寄 付 金 (新 規)	100,000	100,000	0
基 本 財 産 運 用 収 入	49,000	49,000	0	雑 費	50,000	50,000	0
				予 備 費	100,000	100,000	0
				周 年 事 業 費	5,000,000	0	5,000,000
				次 年 度 繰 越 金	1,792,663	3,747,157	△1,954,494
計	8,682,663	5,637,157	3,045,506	計	8,682,663	5,637,157	3,045,506

※同期会補助—同期会(クラス会でないもの)の年間補助1回10,000円。

※同好会補助—年間補助1回20,000円。

※スポーツ奨励金—中央高校のスポーツ充実・発展を図る為生徒・運動部に対して奨励金を支給する。

※令和2年度新入生—197名(入学時に入会金10,000円)

※令和2年度3年生—78名(卒業时会費10,000円)

※令和2年度120周年事業として5,000,000円を計上しております。

令和2年 駅伝慰労会

令和2年1月3日 駅伝慰労会
新橋の第一ホテル東京にて、

校友会の59期谷本・60期白石・61期石田により駅伝応援ありがとうの気持ちをこめて、中央学院大学チアリーディング部に中應会有志一同として、『金一封』をさしあげました。

谷本・白石氏は高校時代応援團であり、中央学院大学の市川学長も応援團に所属していたということでした。



☆卒業生の声

「120年史」より

抜粋

50期

山崎 正明

創立120周年おめでとうござい
ます。

中央区越前堀の中央学院中学校を卒業後、中央高等学校商業科（現中央学院大学中央高等学校）に進学しました。（中商）は学校法人中央学院発祥の母体で、永代橋のほとりにありました。高校時代の思い出は何といっても生徒会活動で、1年生会計、2年副会長に任命され、3年では会長に推されたのですが、家庭の事情で辞退しました。その後、堀内操教頭先生から説得され顧問の鈴木安太郎先生はじめ51期吉野賢治副会長（元学校法人中央学院理事長）らにバックアップされ、勤めを果たすことが出来ました。



61期

石田 高幸

創立120周年おめでとうござい
ます。

私が在籍していたのはちょうど60年前、60周年の時だと思っています。18歳で自動車（普通車）の免許が軽自動車、オート三輪が16歳で取得でき、関東に6校の高校に自動車部がありました。

毎年ラリーの大会があり、あまり良い成績ではありませんでした。合宿は毎年部長の高頭先生の田舎であります四国香川県高松市のお寺に1週間ほど宿泊し、ドライブに行ったり、教習所を借りて走行練習を頑張っておりました。学校での練習は葛西の空き地にコースを作り練習に明け暮れたり、皇居の周りを1週体力作りとランニングをしたり、腹が減っては、イカパン（げそパン）や学食でうどんを食べたりと青春を謳歌し、良い思い出となりました。その後免許取得が18歳以上となり、2、3年後に廃部となりました。教習所には行かずに免許を取り現在に至っております。

記念誌がお手元に届くころには74歳となります。



卒業生の声で書いて戴いた

方々のお名前と期のみを記載いたします。

50期	山崎	正明
61期	石田	高幸
73期	中野	淳一
81期	高橋	昭浩
90期	小川	裕子
103期	野坂	真弓
114期	熊田	太陽
116期	芳賀	優樹

皆様有難うございました。



中央学院大学中央高等学校 120年史の発行

創立120周年を迎え、記念の一環として『中央学院大学中央高等学校120年史』を発行いたします。

120周年実行委員会が昨年11月に発足され、学校、中央高等学校PTA、中央学院校友会、中央学院PTAOB永代会のメンバーで構成され、委員長は、校友会会長でもある55期佐藤昌信です。この委員会において、討議し決定したものを

① 式典及び祝賀会

祝賀会（令和3年1月）は、**中止**
生徒対象の式典（学校体育館）は
やる

② 記念誌・記念品・記念ロゴ

記念誌等 東京平版
記念ロゴ 生徒から募り制作

③ 予算

学校の財政事情あり

④ 120年史

卒業生の声

10代・20代・30代・各
年代投稿

座談会

校友会佐藤相談役・永代会鈴木
会長・PTA二宮会長・司会土田
校長

『中央学院大学中央高等学校120年

史』の編集もすることになっております。『中央学院100年史』を土台に中央学院大学中央高等学校の120年史を編集しています。これは、諸般の事情により学校法人全体ではなく、中央高のみの20年を加えた年史です。

申し遅れましたが、私は、校友会の66期中島伸一と申します。中央学院中学校・中央商業高等学校・中央学院大学を卒業し、二〇一三年3月に退職するまで、学校法人中央学院に事務職としてお世話になりました。

卒業生の声にある様に、一九七〇年4月越前掘の校舎売却により、旧女子部校舎（二〇〇坪）へ集約され新川校舎とした。運動施設は、屋上・地下体育室であり、37期秋山吉五郎氏より浦安の土地寄贈（六〇〇坪）を受け、一九八五年5月より浦安運動場が開設された。2000年10月江東区より旧堅川小学校譲渡（約2,000坪）、耐震補強・特別教室・トイレ改修等を施して、2001年4月江東区亀戸移転、同年浦安市に運動場・三菱倉庫に新川校舎を売却した。2003年12月新体育館完成、（法人100周年記念建設事業、2013年3月新校舎（グラウンド・駐輪場・外構等を含む）完成により現在のような仕様となる。

編集にあたり、新型コロナウィルスの世界的感染拡大のなか、準備委員会メンバー、教職員、PTA、PTAOB永代会、校友会、卒業生などの協力を得た方々に厚く御礼を申し上げます

中央学院大学中央高等学校 120周年実行委員会



中央学院校友会

佐藤 昌信（委員長）

谷本 弘郎 中島 伸一

梅津 修

中央学院PTAOB永代会

鈴木 利治 中野 淳一

中央高等学校PTA

二宮 友幸 長谷川 靖子

舟津 智子 亀ヶ谷 倫子

学校

土田 忠男 大橋 治久

小島 一成



甲子園出場記念碑

中央商業高等学校(現在中央学院大学中央高等学校)64期 峯崎収氏(平成三十一年4月2日逝去)が中央学院高校の甲子園出場記念碑3基を遺言により寄贈した。

67期杉本武繁氏が、寄贈除幕式(令和元年12月21日)での写真です。



峯崎収氏は、長らく中央学院の事務職におり、最初の勤務地が、中央商業高等学校であり夜には中央商科短期大学に通い卒業し、次の中央学院高校の開校時から長らく勤務した、最後の勤務地が中央学院大学で財務部次長であった。一番長く勤務したのは、中央学院高校でその縁で今回の遺贈になった。

緊急報告

学校法人中央学院の

理事長に椎名 市郎氏

がなり、

佐藤 昌信氏は顧問と

なりました。

令和二年十二月一日

中央学院の近況

中央学院大学

中央高等学校

☆ 体育祭

体育祭実行委員長

体育科 園田孝浩

校友会の皆さま、いつも中央高校の教育活動にご協力ご尽力いただき感謝しております。

今年度も実施予定時期はずれま、が無事、江戸川区陸上競技場で体育を実施することができました。

ご承知の通り、今年度はコロナが世界中に蔓延し東京オリンピック・パラリンピックも延期になってしまい、学校の教育活動にも多大なる支障をきたしています。学校行事にいたってはすべて中止及び延期にせざるえない状況でした。しかしながら教職員、生徒の間で体育祭だけでも何とか実施できないかと強い要望があり、検討を重ねた結果、実施時期を当初予定していた九月下旬から十月下旬に順延し、感染予防対策を充実させ、競技種目等、密にならざるえない競技種目は断念し、従来行っていた競技種目についても人数の制限や競技内容を変更するなどして



体育祭 女子ダンス

工夫し、また密にならないように召集の集め方も二か所で行うなどできる限りの安全感染対策を尽くし無事実施することが出来ました。
生徒達の活気に満ちた、笑顔で溢れていた体育祭でした。



体育祭 保護者



体育祭 綱引き

☆部活の紹介

○写真部

第六四回よみうり新聞主催

江東5区写真コンクール

ユース賞 受賞

写真部 二年A組 山中一樹

江東5区写真コンクールは「下町の四季」をテーマにした、よみうり新聞江東支局主催のコンクールです。コンクールには一般の部と高校生以下が対象となるユースの部があります。写真部としては、昨年度から応募し、二年目の今年もユース賞を受賞することができました。この度の受賞は私自身、そして写真部としても大変光栄なことと思っています。

受賞した作品のタイトルは、「黄昏時」です。ある秋の日の夕暮れ、東京を流れる荒川の対岸に見えるスカイツリーを撮影する友人の後ろ姿を収めました。

写真部は現在十名で活動しています。他の部活動と比べると、小規模な部活です。主な活動内容としては、個人で撮影した写真の鑑賞会や、学校行事の撮影や、野外撮影会などを行っています。撮影した写真を年に一度文化祭で展示しています。

今後は他の部活動の活動の様子を撮影したり、校内に展示する機会を増やしたりして活動の幅を増やしていきたいと思っています。

○生徒会

生徒会長

二年A組

圖師 啓介

校友会の皆さま、こんにちは。このたび、生徒会長になりました圖師啓介です。よろしく願っています。

私は生徒の意見を取り入れ、生徒会役員と生徒とが協力して、より良い学



校生活を送れるようにするために、昨年九月から生徒会として活動してきました。

ところが、今年はコロナウイルスの流行により昨年までの活動や、他学年の間で交流ができていないのが現状です。しかし、このような状況だからこそ、生徒会と生徒が丸となって一つ一つできることを頑張っています。

最後に、私が生徒会長に就任してから二か月になりますが、時折、自分に生徒会長が務まるのかと弱気になることがあります。そんなときこそ、友人や仲間、先生方に支えられ、そして今までの先輩方が築き上げてきた思いを受け継いでいることを自覚し、精進していきたいと思っています。



〇ロゴ紹介

本校は1900年に「日本橋簡易商業夜学校」として創立以来、今年で120周年を迎えました。120周年を記念して生徒よりデザインを募集して記念ロゴを作成いたしました。



☆新人紹介

英語科

専任講師 田邊 和佳

今年度から、英語科の専任講師として勤めております。一年生の学年付、部活動では女子バレーボール部を担当しております。

大学では、一年ほどボストンに語学留学をしました。日本語が全く通じない環境の中、留学序盤は「出来ない」

「分からない」の連続で、何度も帰りたいと思いました。しかし、少しずつ自分の考えを自分の英語で伝えられたり、相手の考えを理解できるようになったことで、喜びや楽しさを感じられるようになりました。また、現地の人との交流だけでなく、観光・芸術・歴史など様々な文化に深く触れたことも、私にとって非常に大きな財産になりました。

卒業後は、民間企業に勤めておりました。仕事をしていく中で、改めて英語の重要性を痛感しました。より多くの人に、「英語が出来て良かった」と思ってもらいたい、そのために自分は何が出来たのかを考え、教職の道に進むべく大学院に進学しました。

「英語はできないけど、将来使うつもりはないから問題ない」という生徒の声を時折耳にします。しかし、これからの未来を生きる生徒たちにとって、もはや英語は切っても切れないものです。将来大人になってから、「あの時もっと英語を勉強しておけば良かった」という思いをしないよう、また「英語を勉強してこんなにいいことがあった」と思ってもらえるよう、自分事として英語を学んでもらいたいです。そのためにも、英語に対する意識作りや基礎固めをしていけたらと考えております。

最後に、まだまだ未熟者ですが、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

中央学院高校

「中央学院高校の近況」

教頭 中野 敏之

令和2年度は新入生300名を迎え、総数966名でスタートしました。コロナ禍でのスタートになりましたが、教職員は生徒と共に本校の特色を最大限に活かす学校作りに日々努力を重ねています。

また、休校期間中には1年生へのタブレット端末配布を分散登校で実施し、全学年に活用させ課題・動画の配信やタブレットを使つてのホームルームなど学習を止めない取り組みを行いました。学校再開後は昨年に引き続き、全校生徒対象に正課後や長期休業中の講習、模擬試験の事前・事後学習会、検定対策講座などを行っています。

令和元年度の進路状況は、卒業生314人中、4年制大学230名（内中央学院大学38名）・短大8名・専門学校54名・留学6名と約95%が進学しました。生徒達は明確な目的意識をより確かなものにしていくために学習や部活動に真剣に取り組んでいます。

2学期に入り、学院祭は中止しましたが、規模を縮小・短縮しての体育祭、校技大会（剣道・弓道）など学校行事を通して生徒一人ひとりがお互いに相手を認め合い、尊重し合い、微笑ましい雰囲気が校内に満ちています。本校

は創立50年を迎え、これからも先を見据え、確実に歩みを進めていく未来へとつながっていると実感しています。最後にコロナ禍で多くの大会が中止となりましたが、令和2年度の主な部活動の結果と甲子園出場記念碑について報告します。



体育祭 大縄跳び

《おもな部活動結果》

・弓道部

千葉県高等学校弓道錬成大会

男子団体 優勝

文部科学大臣特別賞受賞

・陸上競技部

千葉県高等学校新人陸上競技大会

男子 1500 m 全国ランキング 32 位

2 年生男子 全国大会出場

男子 5000 m 競歩

第2位 2 年生男子 関東大会出場

・書道部

高校生国際美術展奨励賞

3 年生女子生徒受賞

千葉県小中高校席書大会特別賞

(千葉県高校書道教育研究会会長賞)

3 年生女子生徒受賞



校技大会 (剣道・弓道)



《甲子園出場記念碑》

この記念碑は、本法人の職員として長年にわたり勤務されていた故峯崎収氏により、念願の甲子園出場を果たした野球部一同に対して、昨年12月に寄贈されたものです。除幕式式典当日は、故峯崎氏のご遺族の方と法人関係職員及び野球部員と保護者、卒業生の方々が参列されました。記念碑はグラウンドが見渡せる高台に設置されました。本校ご来校の際はぜひご覧いただければと思います。



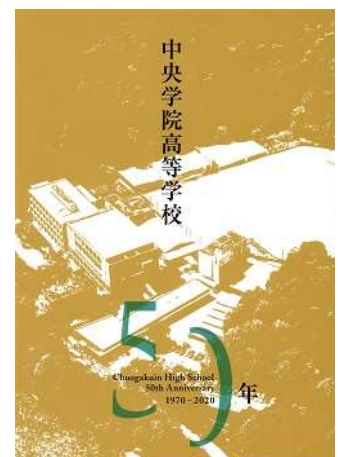
中央学院大学

○中央学院大学の近況

新型コロナウイルス感染症への対応

2020年2月18日に学長を本部長とした「新型コロナウイルス感染症危機対策本部」を立ち上げ、「新型コロナウイルス感染症対応基本方針」を策定し、学生及び教職員等の関係者の健康、安心・安全を最優先に考え、また、感染症拡大を防止するという社会的な責任を果たすことを基本として今日まで様々な取り組みを進めてきました。

3月20日に予定されていた学位記授与式(卒業式)と4月5日に予定されていた入学式の式典はいずれも開催を見合わせる事になり、新入生向けのオンラインで実施いたしました。その



後、4月7日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県に

対して緊急事態宣言が発令され、さらに16日には対象が全国に拡大されたことに伴い、前期授業開始日を5月7日から変更し、「中央学院大学ポータルシステム(CGUポータル)」を基軸としたオンラインツールを利用した遠隔授業を行うことといたしました。

また、オンラインによる遠隔授業の実施にあたり、従来までとは全く異なる授業形態となり、学生や保護者の皆さまに情報機器や通信環境の整備、通信量の増大に伴う経済的負担をお願いすることが予想されることから、学修の継続にかかる経費の負担軽減を目的として、本学在学学生(大学院生を含む)に対し、一律5万円の学修支援金を6月末に給付いたしました。

さらに、6月9日に「中央学院大学における新型コロナウイルス感染症対応指針」を策定し、感染の拡大・収束状況に応じて、授業(講義、演習等)、課外活動、学生の入構等における判断をすることとし、今年度においては体育祭やあびこ祭(大学祭)、指定クラブを除いた課外活動もすべて中止とすることとなりました。

一方、後期においては、対面授業への移行を進めていくなかで必要と思われる項目を「中央学院大学における授業等の再開に向けた感染症拡大予防のためのガイドライン」としてまとめ、原則として遠隔授業としましたが、感染防止対策を十分に講じた上で、一部

の科目において対面授業も実施しております。

駅伝部「箱根駅伝予選会」「全日本大学駅伝」結果

「箱根駅伝予選会」

10月17日に東京都立川市の陸上自衛隊立川駐屯地において「第九七回箱根駅伝予選会」が開催され、本学駅伝部は総合12位で一九年ぶりの予選会敗退という結果に終わりました。

主力選手の欠場があったものの、選手・スタッフに「敗退」の二文字はなかったが、想定以上の高速レースに苦戦し、個々に掲げた目標通りの走りはできなかった。それでも、1時間2分03秒の栗原啓吾(法3)ら、出走一二人のうち十一人が自己新を刻み、上位十人の合計は歴代2位相当の10時間22分38秒。例年であれば通過できるタイムであったが、今回は全体のレベルが高く、本戦出場十校のアナウンスの中に「中央学院大学」の名前はありませんでした。

チームとしての本戦出場は叶いませんでしたが、十一月五日に関東学生陸上競技連合より「第九七回箱根駅伝関東学生連合チーム」のエントリーメンバーが発表され、本学から小島慎也選手(法2)が選出されました。小島選手は予選会において、「1時間03分03秒(個人成績31位)」の成績を収め、今季期待の選手です。また、関東学生連合チームのコーチとして本学駅伝部の川崎勇二監督が就任しました。

「全日本大学駅伝」

11月1日(日)に行われました「秩父宮賜杯 第52回全日本大学駅伝対校選手権大会(全日本大学駅伝)」において、本学駅伝部は出場25チーム中11位(5時間19分26秒)でゴールしました。残念ながら、上位8位までに与えられる次回大会のシード権獲得とはなりませんでしたが、今後も精進を続けて参りますので、引き続き、本学駅伝部への応援よろしく願います。

硬式野球部「横浜市長杯争奪第十六回関東地区大学野球選手権大会」結果

千葉県大学野球秋季リーグ戦(一部)・優勝決定戦(ブレイオフ)において、国際武道大学を5対0で破り、七季ぶり十四回目の優勝をおさめ、「第十六回関東地区大学野球選手権大会(横浜スタジアム)へ2年連続6回目の出場を果たしました。

十一月九日、桐蔭横浜大学(神奈川大学野球連盟1位)との初戦は、一回表に先制しましたが、二回裏相手の四番打者にホームランを打たれ、1対1の同点。その後は投手陣が桐蔭横浜大学の強力打線を六安打に抑え、ピンチの場面でも気迫のこもった投球で凌ぎました。打線も六回以降は毎回得点圏にランナーを進めました。あと1本が出ず追加点を取ることができず、九回裏の一死一・二塁の場面、送球エラーで1対2となり、悔しいサヨナラ負けとなりました。

箱根駅伝予選会を終えて

駅伝コーチ 尾上 岳史

「校友会の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素から私ども駅伝部にこそ支援、ご声援をいただき、厚く御礼申し上げます。

まずは、10月17日に行われました第九七回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会において、総合十二位となり、十八年連続二十一回で出場していた本大会への出場権を逃す結果となり、新春の箱根路を駆けける本学選手の姿を心待ちにしてくださっていた皆様方に対して大変申し訳ない思いでいっぱいです。戦力的にも事前の下馬評ではトップ通過争いの一校に数えられ、学生も「予選会トップ通過」を目標に掲げ、「コロナ禍で例年のように進まない中でも厳しいトレーニングを積み重ねて参りました。しかし、結果としてはトップ通過の順天堂大学とは二分一秒もの大差を付けられ、予選通過ラインの十位専修大学にも二秒及ばず、他大学が私共の思っている以上に強かったというのが感想です。また、主力選手の石綿四年の故障や、ハーフマラソンではチームトップタイムを有する戸口四年を不調から当日になってメンバーから外さざる

を得ず、万全の状態では臨めなかったことも大きく影響しました。さらに、条件はどのチームも同じですが、雨、気温10℃という気象条件により、エースの高橋四年、栗原三年をはじめ、数名が低体温症に陥り、レース後半で失速するなど本来の力を出し切ることが出来ませんでした。また、近年ロードレースや駅伝大会において当たり前の光景となった「厚底シューズ」についても、履かなければ勝負にならないことをわかっていながらも、それでもなんとかなる」という思いがあり、全出場選手が履くことはしておらず、対応や研究が他大学よりも遅れていました。どんな状況になっても予選通過はできるという「過信」と「慢心」があったことは否めませんが、まさか十八年続いた本大会出場が途切れるとは思っていませんでした。というのが正直な気持ちです。

チームとして、今後はまさにゼロからのスタートとなりますが、一カ月先に迫った第九回箱根駅伝では、本学二年の小島慎也が関東学生連合チームのメンバーとして選出されています。チームとしては出場できませんが、連合チームとしては本学選手が走る可能性があるのです。出場する際にはテレビからのご観戦をよろしくお願いいたします。

末筆にはなりましたが、校友会の皆様方の益々のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。今後、中央学院大学駅伝部へのご支援とご声援をよろしく願います。



今回、創立120周年記念式典を合同新春懇親会のかわりに執り行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染予防のため中止です。令和4年の合同新春懇親会をお待ちください。

令和3年 合同新春懇親会 中止



「中央高校の教育整備費に係る」ご支援のお願い

令和二年（二〇二〇）に創立120年を迎えるに当たり充実した教育環境実現を図ると共に運動系・文化系クラブの活動を継続的にサポートし教育強化を進めて行くことを目的として始められました。日本の経済状況が先の見えなしい厳しいところがありますが、母校発展のためにご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご賛同の方は、あらかじめ学校に連絡頂ければ振込用紙を本人宛に郵送いたしますのでご活用ください。

今回、創立120周年記念誌（令和三年1月発行予定）を作成いたします。ご希望の場合は、学校に連絡いただければ、郵送致します。



「校友会費の説明並びに納入のお願い」

校友会費については、昭和五十八年十月二十日で会則が改定され、現在は次のようになっています。

年会費 三、〇〇〇円

特別会費 二〇、〇〇〇円

昭和五十年十月の改定で終身会費二〇、〇〇〇円を決定いたしました。が、以降これを特別会費とさせていただきます。勿論過去において終身会費として二万円を納入して下さった方は、そのまま終身会員の取扱いをさせていただきますのは当然であります。が、諸事高騰の折柄お願いとして年会費も御払込願えれば幸いです。今後は年会費で通常経費をまかなう、特別会費分は基金として積立て、将来学校のお役に立てたいと考えています。

現在会費の未納が多く、基本財産を取り崩している状態です。

どうか皆様

基本財産として特別会費

一金 二万円

亦是運営費として年会費

一金 参千円

を左記宛へ納入下さいますようお願い致します。

尚、同封の郵便振込票（振込手数料無し）でお振込み下さる場合は、通信欄にコード番号をご記入下さい。

郵便局

東京 〇〇一三〇一五二一五二一九

三井住友銀行 日本橋東支店

〇三四一七二五〇〇六九

宛名 中央学院校友会

本部住所 〒一三六〇〇七一

江東区亀戸七六五二二

TEL 〇三二五八三六二七二〇